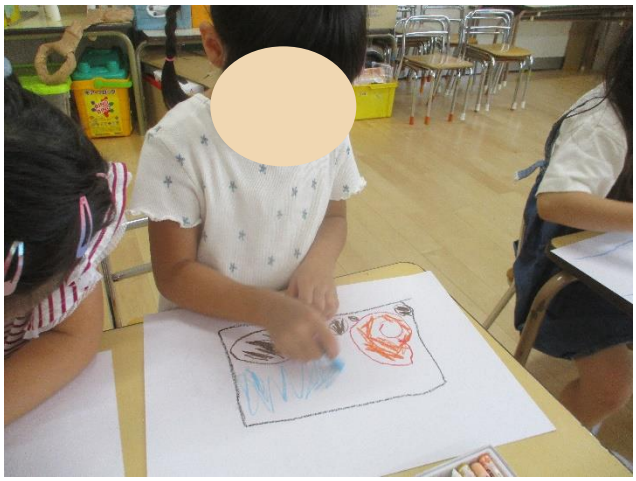
ざりがにの研究　第2弾

2024．12　月組

りぼんちゃんが休み中に水槽から逃げ出してしまうことから始まった2学期のざりがにとの関わり。

子ども達は「赤ちゃんを生むために川に帰ったんじゃない？」「お腹がすいてご飯を探しに行ったのかも」「仲間に会いに行ったんじゃないかな？」と話をしていましたが保育室で見つかり、動かなくなっている姿を見て悲しんでいました。「リボンちゃんの絵を描いて飾りたい」という声もあり絵を描いたり、粘土で作ったりしてりぼんちゃんに思いを馳せ、その姿は2学期終了目前の今も変わりません。つい先日は、「こんなに沢山絵が飾ってあってりぼんちゃんも喜んでるね」と話していたり、色々な先生や、保育者に来るお客さんにりぼんちゃんを紹介する姿もあり、愛着はさらに深まっているようにも感じられます。



動かないからじっくり観察できる！という声も

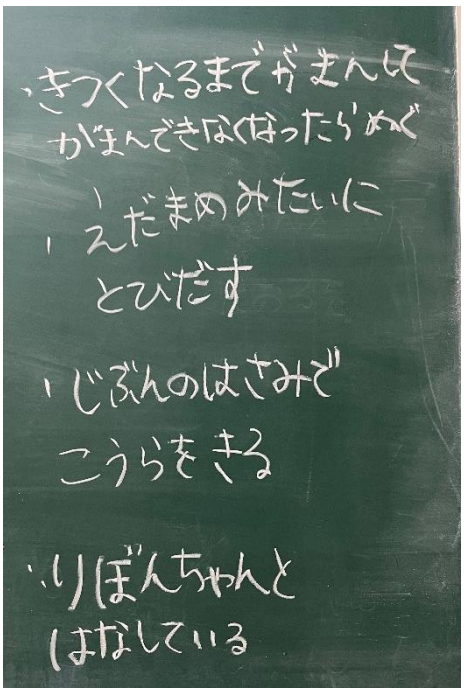
そんな中、星組自然教室でザリガニの赤ちゃんを頂き、月組に仲間入り！全員がそろった日に、ザリガニの赤ちゃんの名前を決めました。はーとちゃん（かわいいから）、えだまめくん（りぼんちゃんは枝豆が好きだったから）などユニークな名前が沢山あがりましたが、多数決で「りぼんちゃんはぴょんって水槽からジャンプしたと思うから、この子もジャンプ出来るんじゃないかな」という理由の「ぴょんちゃん」になりました😊

観察した後はしっかり蓋をしていた子ども達。リボンちゃんが脱走してしまったことが教訓になっています。

毎日観察する中で、「ぴょんちゃんが大きくなってる！」と言っている子ども達。

「どうしてそう思うの？」と尋ねてみると、「触覚が伸びてるから！」と話していました。愛着を持って毎日々よく観察しているからこその言葉だなと感じます。そこから「なんで触覚伸びるのかな？」という疑問が。

すると「脱皮するんだよ！」という声が上がり、脱皮についてみんなで話をしました。

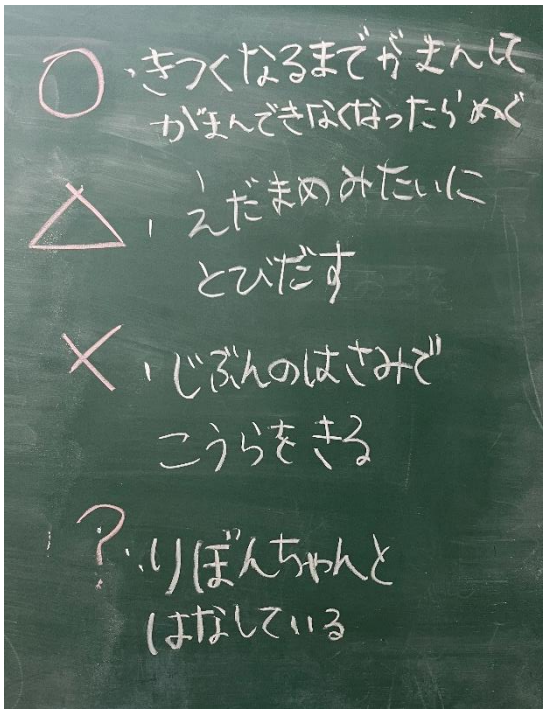


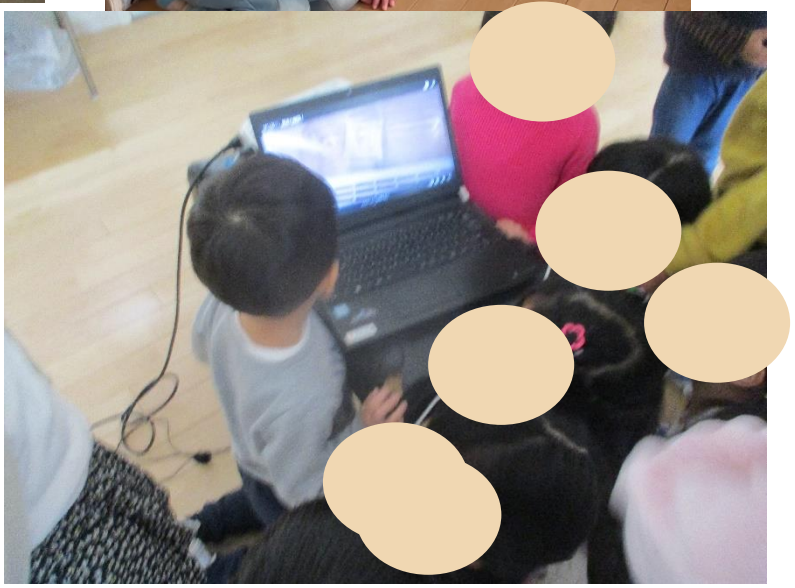
みんなで脱皮の話をし「他のザリガニに切ってもらってるんじゃない？」「でもぴょんちゃん一人でも脱皮してたよ」「僕は自分で出てくると思う」など様々な意見が出たので、実際にザリガニが脱皮している様子を撮影した動画をみて確かめてみることに！

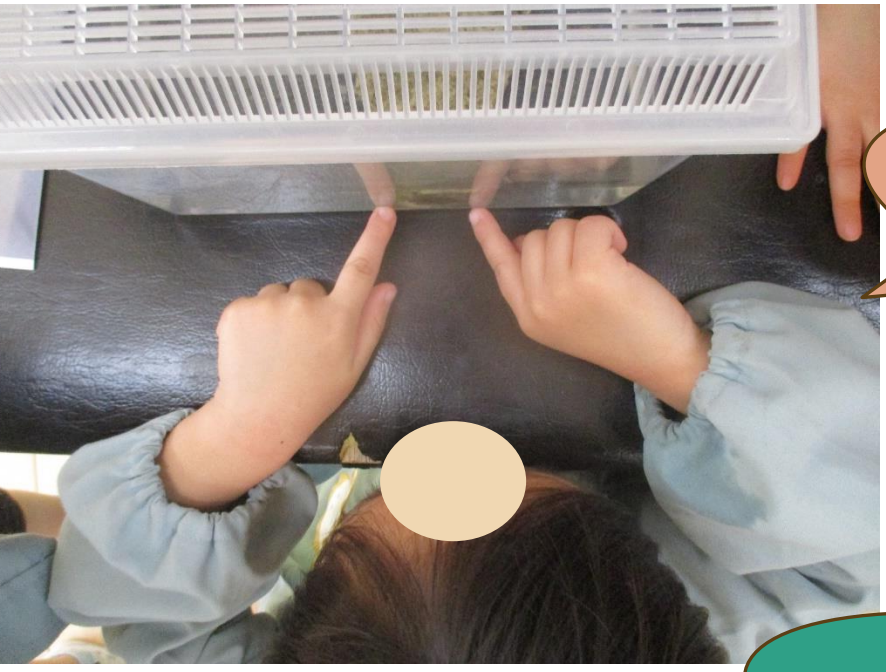
古いプロジェクターで少し見づらい映像ではありましたが、少しずつ変化していく様子に子ども達も釘付けになって見ていました。

色々と予想していた脱皮の瞬間には「わあ！！」と驚きの声が上がり、「もう一回見よう！」と大興奮！何度も見るうちに、「元の甲羅が離れてきた」「目玉の所が白くなってる！」「人魚みたいな動き」「風船が飛んでいく時みたい」と観察して気付いたことを話していました。

脱皮の様子を再現！







今日はこの大きさか～

どうやったら次の日まで覚えてられるかな～と問いかけてみると、「いいこと思いついた！マスキングテープある？」と言うので、渡してみると、、、

こうやって壁側に来た時に長さを測ったらいいんじゃないかな？

りぼんちゃんに続き、どんなものを食べるのかも研究中！畑で採れた大根やジャガイモをあげたり、園庭で採れた柿をあげてみたいという子も。

1学期からのザリガニの飼育を通して、生き物に対する愛着や、これはどうしてなんだろう？不思議だな、と感じたり、予想して、調べてみたりする気持ちが育ってきています。また、皆で話し合う体験を通して、友達の考えをよく聞きそれに対して、賛同したり、自分はこう思うと意見を言ったりする姿も少しずつ増えてきています。3学期も引き続き子ども達と探究していきたいです！